



点検の様子

平成24年度から全県的に実施してきた、ため池定期点検の1巡目が今年度完了しました。引き続き来年度から2巡目の点検に着手します。

近年、ゲリラ豪雨の頻発化等によりため池の被災リスクが高まっています。このことを受け、ため池管理者が実施する日常の管理や点検を補完するため、技術的な見地から堤体の安定性や漏水量等について専門技術者による詳細な点検をしました。

5年間で約8200箇所のだ

ため池定期点検1巡目完了

5年間にわたり約8200カ所を実施

ひょうご
ため池新聞

15号

兵庫県 農政環境部
農林水産局 農村環境室
ため池水利班
TEL: 078-341-7711
(内線 4022)
FAX: 078-362-9455
Email: nosonkankyo@pref.hyogo.lg.jp



め池の点検を実施し、その結果、約半数の4200箇所では何らかの対策が必要であり、そのうち約700箇所では改修工事の必要性が認められました。

今後は点検の結果を踏まえ、その程度に合わせ管理者自らで作成し、関係市町に提出されている「ため池保全計画」に基づく豪雨前の落水や貯水位制限などの管理や、より一層の計画的な改修工事の必要性が明らかになりました。

定期点検2巡目開始

専門技術者と施設を点検する好機

定期点検を実施した「ひょうごのため池安全安心定期点検事業」は、対象とするため池(受益面積0.5ヘクタール以上)を10年の間に2度点検することとしています。

2巡目となる今後5年間の点検では、1巡目での点検と異なる時期。貯水状況での漏水量や堤体変形状況を確認します。

また、併せて1巡目の点検結果に基づき保全計画を作成して

いるため池については、計画の実施状況も把握することとしています。

県としては、管理者にとって、日常点検で不明な点や施設の状態変化などを専門技術者に直接尋ねられる好機であり、ため池の現状を正しく把握し、日頃の適正な管理に役立ててほしいと考えています。



ひょうご親子疏水学習会

～大地を潤す水の路～

淡山疏水開発の偉業を伝える副読本「水を求めて」の読書感想文コンクール表彰式と、メダカのコタロー劇団によるため池や疏水が果たす地域振興の役割を伝える公演を通じて、それら施設の保全を担う次代の人づくりを進めます。

1日 時：平成29年3月5日(日曜日)
13時00分～16時00分(開場12時30分)

2会場：明石市民会館中ホール(明石市中崎1-3-1)

3参加費：無料

4内容：第1部13時00分～
「水をもとめて」第8回読書感想文コンクール表彰式
第2部13時45分～
メダカのコタロー劇団による環境アニメ紙芝居上演
その他ジャンケン大会、ダンス、写真撮影、疏水検定試験など





シリーズ第3弾!

ため池マンと一緒に出かけよう! 淡山疏水の旅!



疏水について学ぶため、ため池マンとともに淡河川・山田川疏水(以下:淡山疏水)を上流端から下流に向かって調査を続けています。

淡山疏水は、神戸市西区、明石市、稲美町にまたがる印南野台地と呼ばれる、水の乏しい地域へ、安定した農業用水を供給し豊かな実りを約束する大切な水路です。

練部屋分水所に参上!! (神戸市西区神出町)

練部屋分水所は、水源の淡河川と山田川から練部屋(神戸市西区神出町紫合)に導かれた水を下流の六つの地域(加古、天満、蛸草、森安、手中、印南)に分水する施設として、1891(明治24)年に造られました。

淡山疏水の水利費は、「用水反別」という全国的に珍しい水量割の負担方式がとられたため、正確な分水が求められました。

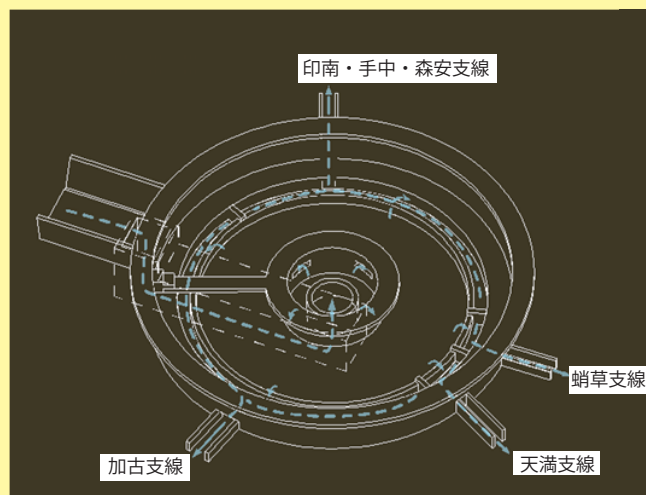
そこで分水所は、水が一旦その下部に潜り中央部から吹き上がった後、流れと水位を安定させて水を分ける複雑な構造をした施設です。

当初は煉瓦造りの四角形でしたが、完成の翌年に発生した大雨の被害を受け、六角形に修復されました。

現在の施設は、1959(昭和34)年に、より正確な分水が可能な鉄筋コンクリート製の円筒形に改修されたものです。配水口は統合されて、現在は四つとなっています。



現在の練部屋分水所



練部屋分水所の構造

ため池保全県民運動
facebook 発信中!



いいね!



<https://www.facebook.com/hyogo.tameike>

「facebook」や「ひょうごため池新聞」にご意見・ご感想をくださった方には「メダカのコタロー」グッズをプレゼント!

兵庫県内のため池や疏水に関するイベント情報や、様々なため池や疏水を紹介しています!

【ご意見・ご感想はこちらまで】

兵庫県農村環境室 Email: nosonkankyo@pref.hyogo.lg.jp